

2010年7月2日

「教育関係共同利用拠点」発足記念シンポジウム

国際連携を活用した世界水準の大学教員

養成プログラム(PFFP)の開発

—大学教員養成と大学院教育の課題—

教育開発支援機構 FD 推進センター

センター長 川上 忠重

「大学教員養成と大学院教育の課題」に関するシンポジウムが2010年6月30日(水)に仙台国際センターで開催された。FDに関しては、大学院の義務化が学部に行き届く形であったにもかかわらず、一部の大学や専門職大学院を除き、学部と比較して余り進行していない現状があり、本シンポジウムは、世界水準の大学教員養成プログラム(Preparing Future Faculty Program: 以下PFFP)の紹介、「教育関係共同利用拠点」の取組や大学院教育の課題等の事例紹介を含む大変興味深いものであった。その一部を紹介したい。

基調講演は、慶応義塾学事顧問の安西祐一郎氏の「大学院教育と大学教育の課題」であり、世界潮流の変化と21世紀の大学教育に必要な項目、日本のトップレベル大学の大学教員に要請される大学院教育力、大学院における人材育成の考え方および日本のトップレベル大学の教育課題等の内容であった。教育課題としては、国際競争力の強化、授業を出来るだけ公開、学生による授業評価を学生にすぐにフィードバックする等のFDの関連項目も挙げられており、大変参考となった。

シンポジウムは4つの話題提供があり、テーマはすべて「大学教員養成と大学院教育の課題について」であったが、今回はその中の1つを紹介したい。

文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長の樋口聰氏の話提供では、今後の知識基盤社会において、大学院が担うべき人材養成機能

を4つに整理し、人材養成機能ごとに必要とされる教育を実施する必要がある項目として、

- ① 創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の要請
- ② 高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の要請
- ③ 確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員の要請
- ④ 知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材養成

が挙げられており、特に大学教員の要請に必要な「教育」として、研究者等の要請の場合と同様の要素に加え、これまで脆弱であった教育を担う者としての自覚や意識の涵養と学生に対する教育方法等の在り方を学ぶ教育を提供することが重要であり、PFFP等のプログラムの構築の必要性が報告された。さらに大学院教育の拡充のために求められることとして、「良い研究者」が必ずしも「良い教育者」とは限らないとのコメントもあり、参加者一同が、教育と研究の在り方についての議論がその後、活発に行われた。

「新時代の大学院教育」答申を踏まえ、新たな「教育関係共同利用拠点」が既に出てきた。アメリカ、イギリス、カナダ等で先行しているPFFPを日本型また私立大学型プログラムへと発展させることができるかどうか、今後考えていきたい。

以上